

内閣府本府政策評価有識者懇談会（第 55 回）議事要旨

1. 日 時 令和 7 年 1 月 30 日（木）13:30～14:44

2. 場 所 中央合同庁舎 8 号館 1 階 S101 記者会見室

3. 出席者

（委員）

座長	白石 小百合	横浜市立大学国際商学部教授
	伊藤 正次	東京都立大学法学部、大学院法学政治学研究科教授
	小野 達也	追手門学院大学地域創造学部教授
	佐藤 徹	高崎経済大学地域政策学部、大学院地域政策研究科教授
	佐藤 主光	一橋大学経済学研究科教授
	横田 響子	株式会社コラボ代表取締役

（内閣府）

	岡本 直樹	内閣府大臣官房政策立案総括審議官
	入野 史也	内閣府大臣官房政策評価広報課課長補佐

4. 議題

- （1）内閣府本府政策評価基本計画の見直しについて
- （2）その他

5. 議事要旨

○ 議題 1

事務局より資料 1～2 に基づき説明。委員の主な御発言は以下のとおり。

《1. 現状と課題》

- ・「記載事項が多く、政策の検討に活用されているとは言えない状況にある」という記述について、政策の検討に活用する場合に、レビューシートの作成過程における検討やレビューシート作成後の活用、あるいはその両方ということもあるかもしれないところ、本記述はどちらを意味しているのか。（佐藤徹委員）
- ・政策の検討に活用されているとは言えない状況にあるのは、記載事項が多いとことが主たる要因と想定されるのか。（佐藤徹委員）

- ・活用の仕方として、施策を見直すというときには、必ずその下にぶら下がっている事業の見直しを伴い、施策自体を見直すことはないと思われるところ、レビューシートとの関係が重要になり、実際に活用するに当たって、施策と事業との関係は有機的に図られているのか。(佐藤主光委員)
- ・内閣府の特徴は、他省庁との関係性だと思われるところ、他省庁との関連施策に係る整合性について、省庁間でコミュニケーションは図られているのか、それは課題としてあるのか、あるいはクリアできているのか。(佐藤主光委員)
- ・政策評価書等の活用方法について、職員間の引継ぎなどで活用していくことが望ましいのではないか。政策評価書等を書くタイミングと引継ぎのタイミングがうまく重なり合っているのか、現状はどのようになっており、工夫や改善について何か議論がなされているのか。(横田委員)
- ・レビューシートや政策評価書の手間を省くという観点において、政策評価書等の記載内容を転記というより自動的に連動させることは可能なのか。(横田委員)

《2. 第8次基本計画の方向性》

- ・「政策の特性に応じた評価方式による評価を行うことも可能とする」という記述は「総合評価方式」を想定したものと思うが、「総合評価方式」は部局に負担感があると思われる。全体の中でいくつか「総合評価方式」がないと困るということだと部局にとってプレッシャーになるので、原則は「実績評価方式」を用いることについて、きちんと説明する必要があると思われる。(伊藤委員)
- ・「政策の特性に応じた評価方式による評価を行うことも可能とする」という記述について、決して定量的な評価をやめたうえで、定性的な文言でも認めるという意味ではないと理解してよいか。(佐藤主光委員)
- ・一部の施策について、再整理を行う一例として、「経済政策等」と書いてあるところ、具体的に「経済政策」はどのような方向で見直すのか決まっていたら教えていただきたい。(佐藤主光委員)
- ・モニタリングについて、どのようなイメージで作業を進めていくことを想定しているのか。(白石座長)

《ロジックモデル、事前分析表、政策評価書様式案》

- ・他省庁との関係について、政策評価書の最後の部分で外的要因を説明するのは難しいと思われる。可能であれば、ロジックモデルの中に、内閣府だけではなく関連する他省庁の事業についてもインプットとして記載し、そこの関係は

どのようなものを把握する必要があるのではないか。最終的には、関係省庁の想定するインパクトと内閣府のインパクトが整合的になっているのか、あるいはインパクトが異なるのであれば、すみ分けできているのかなどロジックモデルの中で関連づけを明確にした方が良いと思われる。また、事前分析表についても、関連する他省庁の施策を並べ、そこをクリックすれば関係省庁の事前分析表に飛ぶような仕組みになっていると、全体的かつ包括的に政策が見えてくると思われる。(佐藤主光委員)

- 外部要因について、結果的に事前に想定できないことはあると思われるが、一方で、事前に想定できる外部要因もあるのではないか。事前に想定できる外部要因については、ロジックモデル等を書いておくことが可能であると良いと思う。(小野委員)
- 補足資料には、実績値等を書く欄が5年分載っているところ、一番重要なのは、評価をする際に過去数年間分の実績値等が見られる状態にしておくことである。5年分に限らず、必要に応じて欄を増やしても良いと思うが、常に過去数年間分の実績値等が見られるようにした方がいいのではないかと。(小野委員)
- ロジックモデルのアウトカムについて、原則として1段階とするよりも原則として複数段階にした方が良いのではないかと。(小野委員)
- 数値で測定できないものについて定性的指標を設定することに異論はないが、文言で書かれるような定性的指標を設定する場合にも、原則として、達成度合いが判断できるようなものにする必要があるということを記載いただきたい。(小野委員)
- 目標値を設定する際に、目標値を明確に書くことに加え、なぜその数値を設定したのかを説明することが非常に重要な意味を持つと思われる。今回、フォーマットが変更されることで、目標値の設定根拠を説明する欄がどうなるのか。もしなくなるようであれば、残してほしい。(小野委員)
- 政策評価書等をいろいろな場面で使っていく流れの中で、必要に応じて、アウトカム指標の内訳(人口規模別、地域別、年代別等)について、積極的に何らかの形で、付表や参考資料等添付することを検討いただきたい。(小野委員)
- ロジックモデルの簡潔性について、アウトカムを「原則として1段階として記載」という表現は厳しいと思われる。あまり単純化するとロジックモデル自体が分かりにくくなることから、「原則として」という表現は使わずに、柔軟に記載できるような表現を検討いただきたい。(佐藤徹委員)
- 「活動実績(アウトプット)」について、例として、「窓口の設置、説明会の開催、そして参加者の理解度の向上」と記載されているところ、このうち「参加

者の理解度の向上」はアウトプットの例としてはあまりふさわしくないのではないか。(佐藤徹委員)

- ロジックモデルについて、「⑥事業の概要 (アクティビティ)」の下に「事業等の具体的活動の内容=インプット」と書いてあるが、イコールとなるのは「アクティビティ」なのではないか。(佐藤徹委員)
- 政策評価書について、ロジックモデルの記載事項として「解決すべき問題・課題」を書くようになっているところ、事後評価を行うときに、ロジックモデルで記載した「解決すべき問題・課題」がどこまで解決されたのかといった観点から行った分析や評価の結果については政策評価書のどの欄に書くのか。(佐藤徹委員)

<文責：内閣府大臣官房政策評価広報課>